

會議は踊る

第一卷

1. (砲聲、混聲、砲聲)
2. 公爵夫人： このいやな砲聲！ この三月と言ふものはいつも
いつも此のドンドン、パチパチを聞きづめた！
3. 伯爵夫人： 今日は又誰のお着きで御座いますか、市長さん？
4. (くさめ)
5. 市長： プロシヤの王様です。
6. 伯爵夫人： 昨日はヴィルテンベルグの王様、(足音) 今日
はプロシヤの王様、明日はロシアのアレキサンダー、これでヨーロッパの諸王侯がウイン
に集るわけですね！ 素的なこと！
7. 大藏大臣： いにやなるよ！ 毎日五十三萬グルデンかゝるんだ、わしには解らん。ヨーロッパの運命が場所も有らうに此のウインで決せられると言ふのが。
8. 市長： 困つたことになりましたね、大藏大臣殿！（く
さめ） 會議がウインで行はれるとは！
9. (くさめ、砲聲)

10. 公爵夫人： 大砲と「くさめ」そりやあんまりだわ！
11. 市長： この風邪はこの前の火曜日に引いたんです、大雨の中で三時間もタレランを待つて居る間に。
12. 公爵夫人： 佛蘭西人は婦人の事に就いて丈、時間が正確ですよ。
13. (笑聲)
14. 伯爵夫人： どうしてそれを知つてゐらつしやるの？
15. 公爵夫人： 少女時代の思ひ出ですよ！ あゝ、毎晩の宴會でベットの形も忘れてしまひましたわ。
16. 伯爵夫人： わたたしは覚えてますわ。
17. 大藏大臣： さう。——總理大臣メッテルニヒ公爵閣下も御存知だ。毎朝十時に吾々を此處へお召になつて十二時に神聖なる寢臺で朝食を召上るメッテルニヒ様だ。
18. (音樂)
19. ペピー： お早うございます、閣下！ よくお休みになりましたか、閣下！ 御用は御座いませんか、閣下？
20. メッテルニヒ： そこには誰が居るか、ペピー？
21. ペピー： 小會議室に饗應委員が。

22. (ペ ル)

23. メッテルニヒ： うん、少し聞いてみるかな？

24. ペピー： かしこまりました、閣下。小會議室、どうぞ、
閣下、饗應委員です。

25. (物 音)

26. 聲： 健康！

27. 聲： 何故何百萬の人々が窓から飛出さねばならぬ
か？ 何故ヨーロッパはウインから支配せられ
ねばならぬか？ それはメッテルニヒ様が野心
の爲めに發狂せられたからである！

28. (物 音)

29. メッテルニヒ： 皆には俺がわからぬのだ、ペピー。

30. ペピー： 何も解りませぬ、閣下！

31. メッテルニヒ： 外交官室には誰か居るか？

32. ペピー： かしこまりました、閣下、外交官室！

33. (物 音)

34. 聲： でもありや貴婦人ぢやねえよ、立派な賣女だつ
たよ。

35. ペピー： お許し下さい、間違へました、線を違へました。

36. 聲： でもメッテルニヒはその女を追つかけたよ、牡牛
の様に。

37. ペピー： これは召使室でございます。

38. メッテルニヒ： 放つて置け、放つて置け、なかなか面白いわい、放つて置け。
39. 召使： 奴の考へてゐる事はこんなに大きいんだ、奴は何と言つて居る？ メッテルニヒに何の用がある？ 俺のいとこのキッスの方がよつぽどネッテルミツヒだ。
40. (笑聲)
41. ペピー： 彼等には閣下が解りません、閣下！
42. (物音)
43. メッテルニヒ： うん、うん……外交官室。
44. ペピー： かしこまりました、閣下。(物音) 外交官室。
45. 外交官： メッテルニヒの迷宮的頭腦も恐るゝに足らん。
(詳細不明)
46. ウェリングトン： メッテルニヒは何うしたんだ？
47. タレラン： 君、我々は戀をして居ればいゝんだ、我々は戀をして居ればいゝんだ、歴史ではない、世界歴史ではないのだ。彼は會議を開いてゐながら我々には踊らしてゐる。重大な會議を催すと同時に、舞踏會を開く、然し重大な政治は自分だけで行つてゐる。彼は危険な男だ、メッテルニヒは。
48. メッテルニヒ： タレラン、あの男は俺が解つてゐる。
49. 外交官： 所で伯爵、ナポレオンに關しての報導は有りま

せんかね?

50. 伯爵： 奴はうまく捕虜になつたのです。エルバ島に居て魚を釣つてゐるのです。
51. ウェリントン： ロンドンでは我々は別の報導を受けてゐる。ナポレオンはエルバに居る、然し、再び巴里へ歸る夢を見てゐると。
52. 伯爵： そりや大變だ!
53. ウェリントン： ナポレオンが又歸つて來たら、左様ならメッテルニヒだ。
54. メッテルニヒ： ウェリントンは頭を悩ましてゐる!
55. サクソニー大使： うん、そのナポレオンの件は早速ドレスデンに通知せねばならぬ。
56. (物音)
57. メッテルニヒ： 郵便はもう檢閲したかね、ペピー?
58. ペピー： 閣下、早速秘密室の方を尋ねて見ます。
59. 郵便官吏 1： ストックホルム、瑞典王國國務省御中。
60. 郵便官吏 2： ドレスデン、サクソニヤ王國樞密院御中。
61. 郵便官吏 3： コペンハーゲン、外務大臣閣下侍史。
62. (物音)

63. 郵便官吏 4: マドリッド、樞密院御中。
64. 郵便官吏 5: ミュンヘン、國務省御中。
65. メッテルニヒ: どんどん仕事し給へ! お早う!
66. ペピー: 何れをお讀みになりますか、閣下? ババリヤ、
スペイン、デンマーク?
67. メッテルニヒ: いや、いや、ヴイルテンベルグの王が昨日着
かれた、彼は最初の印象を通知するに違ひな
い、そして最初の印象がいつも大切だよ、ペ
ピー!
68. ペピー: ヴイルテンベルグですか?
69. 郵便官吏: ヴイルテンベルグ。
70. ペピー: ヴイルテンベルグはあなたの方かね?
71. 郵便官吏: ヴイルテンベルグです。
72. メッテルニヒ: 『余の入城に際し一人の繪の如く麗はしき生
粹のウイン娘、余の馬車に近づき余に薔薇の
花束を贈りたり。然も此の慇懃なる行爲の陰
には商賣の廣告の隠れ居たりと言へば君も定
めし驚かるべし』。(笑聲) けしからん! 「紙製
のカフスには——最優良の手袋はウインの美
はしの牧羊婦店にありと記されありき。』——
此の無禮な奴の爲に惱まされる元首は此れで
六人目だ。彼女に此を禁ぜなかつたのか?

73. ペピー： はあ、閣下、幾度も試みましたが、駄目なので
 ございます。

74. メッテルニヒ： さうか？

75. ペピー： はい、私からでは……

76. メッテルニヒ： よろしい、花束がもう一つ出たら此の美は
 しの牧羊婦に俺を知らしめてやろう。

第一卷終り

第二卷

字幕 1. (挿入)

美はしの牧羊婦

1. (音 樂)

2. 士 官： 英語を話せますか？

3. クリステル： いゝえ。

4. 士 官： 佛蘭西語を話せますか？

5. クリステル： いゝえ。

6. 士 官： お話になるのは獨逸語だけですか？

7. クリステル： えゝ、大將様。

8. 士 官： ねえさん、今晚逢つて呉れる？

9. クリステル： 貳圓五十錢でございます。

10. 士 官： では明日の晩逢えますか？

11. クリステル： お氣の毒ですが、交換は致しません。

12. 士 官： では——何時逢つてくれるの？

13. クリステル： 何か又御入用の時に。

14. (物音、ベル)

15. 娘： 今日！

16. ペピー： 今日！

17. (咳、足音)

18. 士官： 失禮しました！

19. (ベル)

20. ペピー： クリステル！

21. クリステル： あゝ、又、貴方、やつて来たのね。

22. ペピー： ね、クリステル、お前は僕以外の人には誰にでもいゝ顔をするんだね。——一體僕達は長い知り合ひぢやないか。

23. クリステル： 長すぎるわよ……箱を取つて頂戴な。

24. (物音)

25. ペピー： クリステル、何時迄も此の調子で行くのかい？
(物音) 何時迄も、僕はお前をお星様のやうに眺めてゐてお前はどうしても僕の處に下りて來ないのかい？

26. クリステル： あゝ、今日は又貴方の詩的な日ね！私をいらいらさないでね——歸つて頂戴！

27. ペピー： いやだ、今日はお前は僕を追歸せないぞ、今日はお前に通告したい事があるんだ、——不愉快な事を！

28. クリステル： あら、威張るのは止してよ！
29. ペピー： メッテルニヒ様からのお達しだ。もしお前が二度と再び何れかの元首に對し、お前の失禮な花束を押しつける様な事を敢てするならば——
30. クリステル： えい———そうしたら？
31. (物音)
32. ペピー： お前にそんな顔して見られると……！
33. (物音)
34. クリステル： 外のあの騒ぎは一體何なの？
35. (物音、足音、物音)
36. クリステル： 皆はあそこで何をしてゐるの？
37. ペピー： ツアーの入城の見物席を作つてゐるのだ。
38. クリステル： えッ、ツアーがおいでになるの？
39. ペピー： そうだ、明日もうおいでになるんだ。
40. クリステル： まあ、あのお方も私からお花をお貰ひになるのよ……こんな花束を！
41. ペピー： そうか！
42. クリステル： えい。
43. ペピー： ちや僕達の間もお終ひだ！
44. クリステル： その方がいゝわよ！

45. ペピー： クリステル、ねえクリステル、まあお聞き！ ツ
ア—なんかに構ふのはお止しよ！ こんな髯を
生してゐるんだよ！ 先づお前を鞭で散々打た
してから、シベリヤへ追放するよ！
46. クリステル： あゝ、私そんな事どうでもいゝわよ。あの方
は御自分の花をお貰ひになるわよ！
47. ペピー： 貰はないよ！
48. クリステル： 貰ふわよ！
49. ペピー： 貰はないよ！
50. クリステル： 貰ふわよ！
51. ペピー： 貰はないよ！
52. クリステル： 貰ふわよ！
53. (太鼓の音)
54. ペピー： 貰はないよ！
55. クリステル： 貰ふわよ！
56. ペピー： 貰はないよ！
57. クリステル： 貰ふわよ！
58. (音楽)
59. ペピー： 僕がお前に言ふのはこれで最後だぞ、貰はない！
60. クリステル： 貰ふわよ！
61. ペピー： 貰はないよ！
62. クリステル： 貰ふわよ！
63. ペピー： 貰はないよ！

64. クリステル： 貰ふわよ！
65. ペピー： 貰はないよ！
66. クリステル： 貰ふわよ！
67. (太鼓、ベル、カナリヤの聲、馬車の音、鞭の音、カナリヤの聲、混聲、命令、太鼓、混聲、音樂)
68. 聲： 氣を付け！——擔え銃！——捧げ銃！
69. 混聲： 萬歲！——萬歲！——萬歲！——萬歲！
70. (混聲)
71. (叫聲)
72. (混聲)
73. メッテルニヒ： ツアーには定めし御驚きの事と存じます？
74. アレキランダー： 暗殺は——余の職に付き物です。
75. 混聲： 萬歲！——萬歲！——萬歲！

第二卷終り

第三卷

1. (混聲、喇叭、混聲)
2. ペピー： まあ私を通さして下さい！ あれが何だかお見せします！
3. (混聲)

4. 兵士： おい、——我々を空中へ跳ね上げさすのはいやだよ！
5. ペピー： あれは花束です。
6. 兵士： そんな事はどうでもいゝ！誰も通行禁止だ！
7. 混聲： 萬歳！——萬歳！——萬歳！——萬歳！
8. (足音)
9. ビビコフ： 御赦し下さい、ツアー陛下、我々の暗殺に對する需要は今日はこれで充分だと存じます！
10. アレキサンダー： 親愛なビビコフ、お前がその誇張の癖を止められればよいのだが！
11. ビビコフ： ツアー陛下——御赦し下さい——陛下にはもう少し氣をおつけ下さらねばなりません！何の爲に我々はウラルスキーを連れて參つたので御座いますか？
12. (混聲)
13. アレキサンダー： 我々？——お前が連れて來たのだ！
14. ビビコフ： 私はツアー陛下が御危険の場合にはいつも彼が御身代りになる爲連れて參つたので御座います。
15. 混聲： 萬歳！——萬歳！——萬歳！——萬歳！
16. アレキサンダー： では、余はウインの人々の意に應じてやらう！
17. (足音)

18. ビビコフ： 駄目で御座います！陛下！
19. アレキサンダー： では仕方が無い、ウラルスキーを露臺に出してくれ！
20. ビビコフ： 畏まりました、陛下！
21. 混 聲： 萬歳！萬歳！萬歳！
22. ビビコフ： ウラルスキー！
23. ウラルスキー： イエイ、ウクニエム、イエイ、ウクニエム——
24. ビビコフ： ウラルスキー！
25. ウラルスキー： イエシヨ ラスキ、イエシヨ ラスキイ——
イエイ ウクニエム。（足音） イエシヨ
ラスキ——（足音）
26. アレキサンダー： 歓迎を受けてくれ！
27. 混 聲： 萬歳！萬歳！萬歳！萬歳！
28. ビビコフ： さあ出て行け！
29. 混 聲： 萬歳！萬歳！萬歳！萬歳！
30. ビビコフ： 陛下、今晚正七時に陛下御歓迎のオペラが御座います！
31. アレキサンダー： そうか！
32. ビビコフ： ロシアのバレエで御座います！
33. アレキサンダー： 結構な事だ——ロシアのバレエとは！
34. ビビコフ： 左様で御座います！
35. アレキサンダー： 余は事實、この様なものの爲にウインへ来たのでは無いのだ！
36. ビビコフ： 當然又ウラルスキーの擔當すべきもので御座います

37. (笑聲、足音)

38. ビビコフ： 今晚七時に正装!

39. アレキサンダー： よく聽け! 余を恥かしめるな! ロシヤの
ツアーは耳の後ろを搔きさせぬぞ! わかつたか?

40. (足 音)

41. ウラルスキー： 畏りました、陛下!

42. (ノック)

43. 召 使： 國務總理大臣メッテルニヒ公の秘書官がお出で
で御座います!

44. ビビコフ： お通しせよ!

45. (足 音)

46. ペビー： 陛下、メッテルニヒ公閣下よりの喜ばしき御傳
言で御座います、暗殺は暗殺ではなく、爆彈
は爆彈では御座いませんでした!

タイトル 1. (挿入)

最優良の手袋はウインの「美はしの牝羊婦」の店にあり。

47. アレキサンダー： ねえ、ビビコフよ、今日此頃はもう無政
府主義者も信用出来ぬわい。

48. ビビコフ： は、無から有が生ずるもので御座います、陛下!

9. (笑聲)

50. アレキサンダー： ムッテルニヒ公によくお禮を申し上げてくれ。(物音) 何かまだ用があるか？

51. ペピー： 陛下、——陛下が若し一言お執り成し下さるなれば——

52. アレキサンダー： お身の爲にか？

53. ペピー： いゝえ、陛下、爆弾を投げた女の爲にで御座います、陛下——大變よい娘で御座います——大變美しい娘で御座います、あんな娘はヨーロッパ中に御座いません。

54. アレキサンダー： そうか！

55. ペピー： いゝえ、あんな娘はウインだけにしか居りませぬ！

56. アレキサンダー： よろしい——よろしい。

57. ペピー： いゝえ陛下——よろしくは御座いません。

58. アレキサンダー： その可愛いゝ爆弾娘は何處に居るのだ？

59. ペピー： 可哀さうに、監獄に居ります！

60. (啜り泣き)

61. 裁判官： 然して此等の理由により犯人手袋賣子女クリステイネ・アントニア・ワインツインガアは裸體の臀部二十五回毆打の刑に處せらる。

62. (啜り泣き)

63. クリステル： いやだわ——いやだわ——いやだわ！

64. 裁判官： 執行は直ちに藤の鞭第十一號を以て爲さるべし！
65. (啜り泣き)
66. クリステル： いやだわ——いやだわ——恥かしいわ！ 放して下さい：放して下さい！ あら、嫌だわ——嫌だわ——どうぞ、どうぞ打たないで下さい！
(すゝり泣き、泣聲) あの忌々ましいツアー！
67. 巡查： 止めろ、——放免だ——恩赦だ！
68. (啜り泣き)
69. アレキサンダー： おや！
70. (足音)
71. クリステル： この忌な忌ましいツアー！——皆をシベリヤに追放したり、鞭で打たしたりして。
72. アレキサンダー： そんな事は嘘だよ！
73. クリステル： あゝ——私ツアーなんかに構はなかつたら好かつた！
74. アレキサンダー： さう、どうしてだね？
75. (啜り泣き、物音)
76. クリステル。 あの長い髯をした嫌な男！
77. アレキサンダー： そりやもうとつくの昔剃つて仕舞つたよ！

78. クリステル： まあ—— どうして又そんな事知つてゐるの？
貴方あの人識つてゐるの？
79. アレキサンダー： 一寸ばかり。
80. ウラルスキー： イエイ ウクニエム、 イエイ ウクニエム
——イエイ ウクニエム——イエシヨ ラシク、
イエシヨ ラシク……
81. (馬車の音、足音、ノック、足音)
82. ウラルスキー： 御報告申し上げます、——勤務の仕度が出
來ました！
83. ビビコフ： 結構だ！ そんな馬鹿な顔は止してくれ、ウラル
スキー、欠伸する時は口を手で抑へる事を忘
れない様に、解つたか？
84. (足 音)
85. ウラルスキー： 畏まりました！
86. ビビコフ： さあ出掛けよ！ オペラへ！
87. (足 音)
88. ビビコフ： 陛下！
39. (足 音)

第三卷終り

第 四 卷

1. (音 樂)
2. メッテルニヒ： 御承知でせうね。伯爵夫人。ツアーが楽し

い事の爲に國事を忘れる様にするのは貴女の
美しいお目の力による事を。

3. 伯爵夫人： まあ私の美しい目に萬事お任せ置き下さいませ。
4. (音楽)
5. メッテルニヒ： お出でだ。
6. ビビコフ： ちやんと腰を掛けるんだ、馬鹿
7. (物音)
8. (音楽、足音)
9. ペピー： ワインツインガー嬢の放免状だ！
10. 裁判官： ツアー陛下の御命令で、己に放免されて居ります。
11. ベビー： いゝ方だね、ツアーは！
12. (溜息)
13. アレキサンダー： ね、萬事もう良くなつたかい？
14. (音楽、笑聲、混聲)
15. 唄手： 戀にもだえてやるせがなけりや
御座れ此の世に又ない都
世界の心臓の眞只中に
酔ふてとび込みやすぐ解る

これぞ天國ウインの一夜
 ウインとワイン、ウインとワイン
 (ようこそお出下さいました!)
 此の世ぢや思ひもよらない處
 これぞ極樂地上の樂土
 (何も見ませんよ)
 夢に夢みてウインのワイン!
 而もあの子とお二人連れよ
 これぞ天國ウインの一夜、
 ウインとワイン、ウインとワイン
 (乾杯、諸君!)

昔々のウインナ夜話は
 ウインの子供に尋ねて御覽
 町を離れて櫻の咲いた
 農家の娘がしてくれる

これぞ天國ウインの一夜
 ウインとワイン、ウインとワイン
 此の世ぢや思ひも寄らない處
 これぞ極樂地上の樂土
 夢に夢みてウインのワイン
 而もあの子とお二人連れよ
 これぞ天國ウインの一夜
 ウインとワイン、ウインとワイン

(合 唱)

これぞ天國ウインの一夜

ウインとワイン、ウイントワイン

此の世ぢや思ひも寄らぬ處

これぞ極樂地上の樂土

夢に夢みてウインのワイン

而もあの娘とお二人連れよ

これぞ天國ウインの一夜

ウインとワイン、ウインとワイン

昔々のウインナ夜話は

ウインの子供に尋ねて御覽、

町を離れて櫻の咲いた

農家の娘がして呉れる

これぞ天國ウインの一夜

ウインとワイン、ウインとワイン

これぞ天國ウインの一夜

ウインとワイン、ウインとワイン

これぞ天國ウインの一夜

ウインとワイン、ウインとワイン

これぞ天國ウインの一夜

ウインとワイン、ウインとワイン

16. (音 樂)

第五卷

1. 唱 手： これぞ天國 ウインの一夜
ウインとワイン、ウインとワイン——失禮ですが、音楽の爲に少しばかり……
2. アレキサンダー： うん、だがロシヤのお金しか持ち合せが無いのだが。
3. 唱 手： 構ひませぬ、お客様、澤山いたゞけさへすれば何處の貨幣でも構ひません。——(物音) 承知致しました、男爵様！——本當に有難う御座います、伯爵様。感謝致します、殿下。
4. (物 音)
5. クリステル： 全部金貨だわ、これは一體誰？
6. アレキサンダー： うん、ツアーだよ。
7. クリステル： ツアーですつて?! (物音) 陛下 (物音) 陛下、私をシベリヤへ追放しないで下さい！
8. アレキサンダー： だつて、クリステルや、私達は良い友達ぢやないか？
9. クリステル： 左様で御座います、陛下の御望みなれば。
10. アレキサンダー： どうぞ。
12. クリステル： どうぞ、私はもう歸らねばなりません。
12. (物 音)
13. アレキサンダー： 馬車で送つて上げやう。

14. クリステル： 有難うございます、歩いた方がよろしう御座います。
15. アレキサンダー： 私もだ。
16. 唄手： 又お近い内に御出で下さいまし、殿下……さあ
皆、打出しだ——しつかり！
17. (音楽、混聲、笑聲、音楽、ノック)
18. ペピー： クリステル！クリステル！
19. (音楽、口笛)
20. アレキサンダー： 手はおよし、私には口があるんだ。
21. クリステル： でも私の爲にでは御座いません、陛下。
22. (音楽、鞭の音、躰き、音楽)
23. ペピー： 閣下、何をお聞きになりますか？—— 饗應委員
室？ それとも外交官室？
24. (笑聲)
25. メッツテルニヒ： 召使室だ——彼等の方が饗應の事はよく知
つてゐるし、又外交的手腕もいらぬのだ。
26. ペピー： 左様で御座います、閣下、召使室です。
27. 召使 1： あゝ、ウェリントンの話は止してくれ！外國の
王様の中で一番偉ら物の遣り手はツアーだ。
昨日の晩オペラで佛蘭西の伯爵夫人を眼を細
くして見詰めて居た様子てばないよ——ハハ！

28. 召使 2: そんな事あ何でもないよ。それからツアーのお親爺さんは新酒祭に出懸けて行つて、そこで生粹のウイナ娘と一杯やつたんだ。とても可愛いゝ娘だつたよ。
29. メッテルニヒ: ハハ!
30. 聲: 大將に花束を投げた可愛いゝ手袋屋の娘だつたんだ。娘はツアーの親爺さんに全く無中だつたよ! 別れる時に親爺さんは娘にキッスしたよ!
31. メッテルニヒ: うまいぞ、ペピー、これでツアーは今日會議に出席しまい。俺の願ひ通りだ。彼は踊るだらう、そこで俺は——俺は前進するんだ。
32. ペピー: 仰せの通りで御座います、閣下!
33. メッテルニヒ: これはお前に適した仕事だ、ペピー。その娘をよく注意して居てくれ、そして必要の場合には少し助けてやつてくれ、解つたか?
34. ペピー: 承知致しました、閣下、閣下の御賢察の通り、これは私に適した仕事でございます。
35. (音楽)
36. クリステル: 貴方方まあよく考へて御覽なさい。そこで私はその金貨をちつとよく見たのよ、そしたら急に私のお連れが誰だか分つたのさ——ロシヤの皇帝御自身なのよ!!

37. (笑聲)

38. 娘： 私達をだますのは止してよ！(笑聲) そんな話
はブラッシュケ奥さんにしてお上げなさいよ！

39. クリステル： 何ですつて？——ブラッシュケ奥さんも自分で
トランプで見てくれたのよ、ブロンドのすら
りとした高位のお方！

40. 娘： あゝ。小路の夕闇で幸福が！——(笑聲) ねえ、
貴女はきつとロシヤの女王に成れるわよ！

41. (笑聲)

42. クリステル： 貴女方に見せて上げるわよ！これ！これ！(足
音) この中に王冠があるのよ！——こら！

43. 娘： あら！あら！

44. (足音、笑聲、混聲)

45. 娘： 私の髪を離してよ、この畜生め！

46. 娘： ポルデイ、やつつけちまいよ、この嘘つき女
を——あら——あら！

47. 馭者： クリステイネ・ワインツインガー嬢様でいらつ
しやいますか？！

48. クリステル： そうよ？

49. 馭者： どうぞ？

50. クリステル： どうしたの？

51. 馭者： 貴女様のお馬車がお待ちして居ります、殿下！

52. クリステル： 私の馬車？……私の馬車！

53. (足 音)

第五卷終り

第 六 卷

1. クリステル： 何處へ行くの？
2. 馭 者： 貴女様の御別莊へ、お嬢様。
3. (足音、物音)
4. クリステル： 私の別莊へ！
5. (音 樂)
6. 唄： 夢かしら？ うつゝか知ら？
泣いてるのかしら？ 笑つてるのかしら？
今日は私のしてる事が分らない！
私の行く處
私の居る處
皆が私に笑つてる
今日こそお伽噺がほんとなる
今日こそ私にはつきり分る

たゞ一度、 今日ぞ滿つる
我が命の幸
空開けて、降りそゞぐ
バラ色の光
たゞ一度、 今日ぞ滿つる
若き日のまぼろし？

命賭けて、たゞ一度
 まゝよ明日は消ゆる夢
 命賭けて、たゞ一度
 吾が青春の花は咲けば――

うれしい太陽
 世界は歡喜に満ちてゐる
 今日のお前は一番綺麗
 人は戀をし
 小鳥は唄ひ
 幸福の歌に酔つてゐる
 今日幸福は戸毎に訪ふ
 お前も出て来てお探しよ!

たゞ一度 今日ぞ満つる
 我が命の幸
 空開けて降りそゞぐ
 バラ色の光

たゞ一度 今日ぞ満つる
 若き日のまぼろし?
 命賭けて たゞ一度
 まゝよ明日は消ゆる夢
 命賭けて たゞ一度
 吾が青春の花は咲けば――

たゞ一度 今日ぞ満つる
 我が命の幸

空開けて 降りそゞぐ
 パラ色の光
 たゞ一度 今日ぞ満つる
 若き日のまぼろし?
 命賭けて たゞ一度
 まゝよ明日は消ゆる夢
 命かけて たゞ一度
 吾が青春の花は咲けば――

四方の草むらに
 花は咲き亂れ
 陽は輝く
 夢の様に
 樹の間から
 花が芽ぐむ
 お聴きよ
 どの花も私に一言云ひたがつてゐる
 今日の私はお前の爲にだけ咲くと

たゞ一度 今日ぞ満つる
 我が命の幸
 空開けて 降りそゞぐ
 パラ色の光
 たゞ一度 今日ぞ満つる
 若き日のまぼろし?
 命かけて たゞ一度

まゝよ明日は消ゆる夢
命かけて たゞ一度
吾が青春の花は咲けば――

7. (音 樂)

8. (合 唱)

9. (音 樂)

10. ペピー： ローテン・クーゲル旅館氣付、露國宮庭財務官
シュターン男爵様宛でございます、閣下。

11. メッテルニヒ： 中に何と書いてある？

12. ペピー： ツアー陸下の御命令により貴殿に御願ひ申し上げ候、クリステイネ嬢に對し……

13. メッテルニヒ： それから？

14. ペピー： ヒイチング・クライネ・アレー十一番地クリステ
イネ・ワインツインガーに一ヶ月金壹千圓也
御送金相成度候。 ビビコフ署名

15. (笑 聲)

16. メッテルニヒ： ブラヴオー、ペピー、お前はうまくやつた
な。

17. ペピー： 有難う御座います、閣下。

18. (溜 息)

19. 召 使： 國務總理閣下の秘書官の御出で御座います。

20. クリステル： お通しして下さい。

21. ペピー： ね、お前恥かしくないのかい？
22. クリステル： 恥しい？ 私自慢してゐるわ！
23. ペピー： 僕の妻に成るのぢやないのかい？！
24. (足 音)
25. クリステル： 私成らないわよ。
26. ペピー： クリステル——お前ほんとにツアーがお前の事を真剣に思つて居ると思つてゐるのかい？
27. (ノック)
28. クリステル： お這入り。
29. 召 使： ツアー陛下の侍従の御出でございます。
30. クリステル： お通して下さい。
31. (足音、物音)
32. ビビコフ： お早う御座います、秘書官殿、お嬢様、私はツアー陛下が本日午後四時に貴女様をお訪ね遊ばすとのお報せをお傳へする名譽と喜びをもたらして参りました。どうぞ決して何もお構ひ下さらぬ様——私が全部仕度致します。ロシアのお茶——ロシアの音楽——ロシアの氣分——全部ロシア式で——ロシア式——ロシア式——ロシア式——生粹のロシア式で！お嬢様！——左様なら、秘書官殿！
33. (足 音)

34. クリステル： ほら——分つたでせう、あの人がどんなに私
のこと眞剣に思つてるか。
35. ペピー： うん、そのうちに分るだらうよ！
36. (物音)
37. クリステル： あんたはキットあの方がいらつしやらないと
私に信じさせたいんでせう？
38. ペピー： お出でになるにはなるさ、だけど、どんなに急い
で歸られることか (叫聲) お前は驚くだら
うよ。
39. クリステル： 貴方には戀なんか何が解つて?! あの方キッ
ト此處にお泊りになるわよ！
40. ペピー： お泊りにならんよ！
41. クリステル： お泊りになるわよ！
42. ペピー： お泊りにならんよ！
43. (太鼓、音楽)
44. クリステル： お泊りになるわよ！
45. ペピー： お泊りにならんよ！
46. クリステル： お泊りになるわよ！
47. ペピー： お泊りにならんよ！
48. クリステル： お泊りになるわよ！
49. ペピー： お泊りにならんよ！
50. クリステル： お泊りになるわよ！ お泊りになるわよ！ お泊
りになるわよ！ お泊りになるわよ！

51. ペピー： お前ともうこれ以上喧嘩するのはいやだ！
52. クリステル： お泊りになるわよ！ お泊りになるわよ！ お泊りになるわよ！
53. ペピー： お泊りにならんよ！
54. クリステル： お泊りになるつてばよ！
55. (物音)
56. ペピー： お泊りにならんよ！

第六巻終り

第七巻

1. ビビコフ： ツアー陛下よりの御傳言で御座います、今日午後始めて會議に出席せらるる事を最も御満足に存ぜられます。
2. メッテルニヒ： 結構な事だ、ビビコフ君！今日會議で陛下に御挨拶申上げ得る事がわしは非常に喜ばしい。
3. ビビコフ： 私も喜ばしう御座います、閣下、私共一同も喜んで居ります、閣下、私共皆喜んで居ります、閣下。
4. (物音、足音、ベル)
5. ペピー： 閣下、御用は？

6. メッテルニヒ： 一體どうしたのだ——ツアーはやつぱり會議に出席されるではないか？
7. ペピー： 信じられません、閣下、今日は午後中手配がして御座います、……御免下さい！
8. メッテルニヒ： あゝ——わしの一番好い援兵だ！
9. ペピー： 閣下が御賛成ならば——伯爵夫人が今日午後五時にツアーをお茶にお招き致したいと仰せられます。
10. メッテルニヒ： 上出来だ、ペピー、結構だ……あの綺麗な目は昨日効目があつたな——！
11. 伯爵夫人： まあ、今日の午後も又効目がある事と存じます。
12. メッテルニヒ： 幸はせなアレキサンダーだ——俺もメッテルニヒでなかつたら、今日午後はツアーになり度いもんだ。
13. アレキサンダー： 伯爵夫人にお傳へして呉れ、わしは美しい御婦人を一度もお待たせした事は無いと……ビビコフ！
14. ビビコフ： 陛下？
15. アレキサンダー： お前は何も気が付かないか？
16. ビビコフ： いゝえ、陛下、何も気が付きません。
17. アレキサンダー： わしに良をかけて居るのだ、ビビコフ！
18. ビビコフ： 良？——いゝえ、私は本當に何も気が付きません。

19. アレキサンダー： お前は馬鹿だ、ビビコフ！
20. ビビコフ： 仰せの通りで御座います、陛下！
21. アレキサンダー： 五時に或る婦人の御招待——五時に會議
 が開かれるのだ——わしを遠ざける積りだ！
 メッテルニヒはわしを抜きにして決議したい
 のだ！——女の問題は全部午後はウラルスキ
 ーに引受けさせやう。
22. ウラルスキー： イエイ ウクニエム イエイ ウクウク——
 ウクニエム イエシヨ ラシク、イエシヨ、ラシ
 ク イエイ ウクニエム イエイ ウク——イエ
 シヨ ラシク……
23. (ベル、足音)
24. ビビコフ： ウラルスキー！
25. (足音)
26. ウラルスキー： はい！
27. ビビコフ： 何か気が付いたか？
28. ウラルスキー： 何も気が付きません。
29. ビビコフ： お前も馬鹿だ！
30. ウラルスキー： 仰せの通りで御座います！
31. ビビコフ： 本日午後四時の勤務——可愛いウイン娘——
 陛下をお伽噺の王子様として——五時——オ
 ペラのボックス席の社交界のしたゝか女——
 陛下をドン・ファンとして——直ちに最後まで
 で行く事——陛下の御名聲は御前の腕次第だ。

32. ウラルスキー： 畏りました！
33. ビビコフ： ウインの娘の處では遠慮して——夢の様に——
叙情的に——ロマンチックに！
34. ウラルスキー： キスは——？
35. ビビコフ： 氣でも狂つたのか?! 陛下の爲にお残しして置
くのだ！
36. ウラルスキー： あゝ！
37. ビビコフ： 此ら——ロシアでは一寸した馬鹿な事の爲にシ
ベリヤに追放された者もあるのだぞ！ お前は
彼女を見詰めるのだ、——こんな風に！——お
前は彼女に囁くのだ、やさしく——うんとや
さしく！——彼女がお前にキッスしたいと言つ
たら、お前は失禮しながら風邪を引いて居る
のだ——こんな風に、——(咳)——分つたか?!
38. ウラルスキー： 綺麗な娘ですか？
39. ビビコフ： そんな事はウインの言草ぢや無いけれど、お前
の構つた事ぢやないよ！
40. (時計の音、音樂)
41. クリステル： 今日は、皆様！
42. 男： (譯解不能) ストラスツイチ、ウラシチツイ、
ストラスタケ！
43. (足 音)
44. 男： 此處の螺旋ネヂを廻すと熱いお湯が出て來ます。
45. 支那のボーイ： (譯解不能)

46. (足音、猿の聲)
47. 召 使： ツアー陛下!
48. クリステル： アレキサンダー! (足音) 有難う! 種々と私
に贈物下さつて有難う! (咳) 陛下今日は何
だか御様子が變つて居らつしやいますのね?
49. ウラルスキー： わしはいつも同じぢや、今日は只少し遠慮
してゐるだけだ——夢の様に——叙情的に
——ロマンチックに——どうぞ!
50. (溜息、扉の音)
51. ビビコフ： さあ始め!
52. (音 樂)
53. クリステル： お茶は如何ですか? アレキサンダー?
54. ウラルスキー： どうぞ。
55. (音 樂)
56. クリステル： お砂糖は?
57. ウラルスキー： 甘く (音樂)——うんと甘く (音樂) もつ
ともつと甘く。
58. (音樂、猿の聲、物音、足音)
59. ペピー： 閣下!
60. (音 樂)
61. ビビコフ： シ——そつと! 静かにして下さい……陛下が
中においでになるのぢや!

62. ペピー： 閣下、ツアーは本當に中においでになるのですか？
63. ビビコフ： ほんとにとは何事じや？ どうして本當になのぢや？ 誰方が中に居らつしやると云ふのぢや？
——氣でも狂つたのか？！
64. (足音)
65. ペピー： 陛下はお出懸けにならなければなりません！
66. ビビコフ： 何處へぢや？
67. ペピー： 陛下は五時に伯爵夫人の處へおいでになるお約束をなさつたのです。
68. ビビコフ： まあ辛抱しなさい、君、我々は一つ一つ片付けて行くよ。
69. (音楽)
70. クリステル： 陛下、お茶が冷えます。
71. (音楽、咳)
72. ビビコフ： いけない、こりやあんまりだ。
73. (扉の音、咳)
74. ビビコフ： 陛下、——馬車がお待ちして居ります！
75. (足音)
76. クリステル： 手は止して、——私には口が御座います。
77. ウラルスキー： わしの爲ではあるまい。

78. クリステル：アレキサンダー！——陛下——陛下はいつ又
お出下さいますか？
79. ビビコフ：さあはじめ
80. (音楽)
81. 召使：ツアー陛下！
82. (音楽)

第七卷終り

第八卷

1. (物音)
2. 召使：神聖オーストリア皇帝フランツ陛下！
3. (音楽)
4. 公爵夫人：あそこに缺けて居るのは誰方です？
5. 大藏大臣：何處に？
6. 公爵夫人：あそこのフランツ皇帝の右側にまだ席が一つ空いておます。
7. 大藏大臣：あれはツアーのお席です、今日はお出にならないのですよ、他にもつと良い事がお有りになるんです。
8. 伯爵夫人：私達もツアーと容易くお友達になれると言ふのはほんとかしら？
9. 公爵夫人：だつてツアーは骨董蒐集者ぢや有りませんよ。

10. 大藏大臣： あそこで熱心にペルシヤ王と協議してゐるのは誰でせう？

11. 市長： あれは皆の中で一番頭のいい方です、メッテルニヒもあの方は瞞せないのです、——サクソニアの王様ですよ。

12. サクソニア王： いや、ねえ、君、バタパンはウインは素的だ、うん——うん——然しかフェは——いや、カフェは、うん、わし等のドレスデンの方がずつと良い。

13. (足音)

14. ペビー： 閣下、ツアーは只今伯爵夫人の處にお着きになりました。

15. メッテルニヒ： よし、ペビー、上出来だ、今日はこれで反對者を除いた譯だ、そこでこれから會議を開かう！

16. (太鼓、足音)

17. メッテルニヒ： 陛下、残念乍らツアーの御不在のまま協議致さねばなりません。

18. 召使： 露國ツアー陛下！

19. (音楽)

20. 郵便官吏 1： ストックホルム市、スエーデン王國々務省御中。

21. 郵便官吏 2: ドレスデン、サクソニア王國樞密院御中。

22. 郵便官吏 3: ローマ、法王使節御中。

23. (物音、溜息)

24. 郵便官吏: お顔色がお悪い様ですね、秘書官様。

25. ペピー: 何もかも此の會議のせいだ! —— いつもツアーの後を追駈廻し —— この限りない會議續き! 次から次へと宴會! あゝ、ほんとに……閣下準備が整ひました。ツアーの郵便物は此處に御座います。

26. メッテルニヒ: 女の筆蹟だ! —— まあ見て見よう! —— 「アレキサンダー! —— 貴方様は一度だけ私の處へ來て下さつたきり二度とお出になりません。何故ですか? お氣を悪くなさいましたの?」 —— あゝ! —— 「一日中夢を見ておましたわ —— 貴方様が私を幸福にして下さる —— 私はもうこんなに長い間不幸で一人ぼつちなの」これは! これは! 「もう唯一度でいゝから貴方にお目にかゝりたいの。クリステルより」 —— クリステル —— クリステル —— 何のクリステルだらう?

27. ペピー: 閣下、 —— それは手袋屋の小娘に違ひ有りません。

28. メッテルニヒ: あゝ、あの花束の娘か? お前に特に命令し

て置いたぢやないか、少し手傳つてやる様に!

ではこの娘を出来るだけ急いで、又ツアーと

一緒にしてやるんだ、わかつたか?

29. ペピー： かしこまりました、閣下!

30. (足音、溜息、足音)

31. 召使： 御來訪を通じませうか、秘書官様?

32. ペピー： 全然餘計な事だ。

33. (足音、水の音)

34. クリステル： あゝ、貴方だつたの、ペピー。

35. ペピー： そうだ、失禮したね、僕だよ。

36. クリステル： 又私の事を構つて下さるなんて貴方御親切ね。

37. ペピー： キット誰か他の人を待つてゐたのだらう?

38. クリステル： 貴方知つてゐるでせう、誰がいつも私の處へ来るか。

39. ペピー： 知つてゐるよ、——すつかり分つてゐるよ。

40. クリステル： 貴方、何うしたの、それはあの方の御愛用の椅子よ! そとにあの方が腰をかけ、此處にわたしが掛けるの! 毎日私の所へ來て下さるわ、時々一日に二度も!

41. ペピー： え——時々——二度も!

42. クリステル： 此處にお出にならない少しの間でも、唯私の事ばかり思つてゐて下さるの!

43. ペピー： 何處からそんな事がわかるのだ？
44. クリステル： こんな事は感じるものよ、……貴方にはわからないわよ。
45. ペピー： さうかい、ぢやお前に聞かせてやらう、一度だつてあの方はお前の事なんぞ思ひはしないよ！
46. クリステル： 何ですつて？
47. ペピー： 女から女へと飛んで行くのだ、お前の事なんか思つてやしない！
48. クリステル： そりや嘘よ！
49. ペピー： 嘘だつて？ では今晚の大慈善舞踏會へ行つたら自分で納得するだらう。
50. クリステル： あの方もそこへ行らつしやるの？
51. ペピー： うん、そこへ行けばあの方が、大勢の御婦人達と何をしてゐるかどお前にわかるよ。
52. クリステル： いやよ、いやよ、そんな處わたし行かない方がいゝわよ。
53. ペピー： あはあ、お前に自信が無いのだらう。
54. クリステル： よこして頂戴！（物音、啜り泣き）もう一度あの方にお目にかゝれさえすれば！

第九卷

1. (混聲、音樂)
2. メッテルニヒ： ペピー、今日の會議はツアーを抜きにして終了しなければならない。ナポレオンの問題はわしの考へ通り解決する、その爲め饗應委員にもう一度傳へて呉れ、ツアーを舞踏場から出さぬ様にと！
3. ペピー： かしこまりました、閣下！
4. (足音、音樂)
5. アレキサンダー： ビビコフ！
6. ビビコフ： 陛下！
7. アレキサンダー： 十分の内にウラルスキーを連れて来て呉れ。俺は會議に行く、重大な會議だ。ナポレオンに関する決議だ！
8. ビビコフ： かしこまりました、陛下！
9. 公爵夫人： お若い方、閣下は私の仕事に干渉なされない様に。ツアーはキッスをお賣りになりますから他所へお出になれないでせう。閣下にお傳へ下さい、私は如何にして男の心を奪ふかを存じて居りますと。(混聲) さあ！(喇叭) 私は皆様に最も意外な事をお知らせする名譽を持つ者でございます、ツアー陛下はこれからウイ

ンの貧民の爲にキッスをお賣りになります。

——一回百圓で!

10. (混聲)
11. アレキサンダー: 今度はメッテルニヒにやられた!
12. ビビコフ: 私も同じ意見です、陛下!
13. (喇叭、音楽、笑聲)
14. アレキサンダー: 代理人の有る事もたまにはホントにいいものだ!
15. ビビコフ: ほんとにさうで御座います、陛下。
16. (笑聲、音楽)
17. アレキサンダー: ビビコフ!
18. ビビコフ: 陛下!
19. アレキサンダー: あれは例の娘ではないか。
20. ビビコフ: 左様で御座います、陛下、例の娘で御座います。
21. アレキサンダー: あの娘の事を悉り忘れてゐた。……ビビコフ!
22. ビビコフ: 陛下!
23. アレキサンダー: ウラルスキーに直ぐ止めさせよ!
24. ビビコフ: かしこまりました、陛下!
25. (音楽、混聲、音楽)

26. 外交官： おやおや伯爵、御覧なさい、あの上に可愛い娘
が二人居る。少しばかり踊りに行かうぢや
ありませんか、——え？
27. 伯爵： え？
28. 外交官： え？
29. (音楽)
30. メッテルニヒ： 皆様の中に議事日程の第三項に對して異議
ある方は有りませんか？——では御書き下さ
い： 終身追放は満場一致で可決さる。
31. (拍手)

第九卷終り

第十卷

1. (音楽、混聲、足音)
2. ビビコフ： 何うしたので御座いますか、閣下？
3. メッテルニヒ： ナポレオンがフランスに上陸したのだ！
4. ビビコフ： それは——チプカ！閣下！
5. (混聲、音楽)
6. ペピー： 陛下、陛下のお車を用意致しました。——陛下
には必ず今夜お發ちになる事と存じます？

(音楽) あゝ、陛下、私はとても嬉しうございます。會議が済んで私の女の子が又私のもものになります。

7. (音楽)

8. 唄ひ手: 戀に悶えて遣る瀬がなけりや
ごされ此の世に又ない都

(お邪魔様)

世界の心臓の眞只中に

(御遠慮なく)

酔ふて飛込みや直ぐ判る。

(合唱)

これぞ天國ウインの一夜
ウインとワイン、ウインとワイン
此の世ちや思ひもよらない所、
これぞ極樂 地上の樂土
夢に夢見てウインのワイン
而もあの子とお二人連れよ
これぞ天國ウインの一夜
ウインとワイン、ウインとワイン
これぞ天國ウインの一夜
ウインとワイン、ウインとワイン
(今晚は、男爵様!)
ウインとワイン、ウインとワイン

(新酒を一杯如何です?)

此世ちや思ひもよらない所

(ソーセジを少しばかり如何?)

9. ビビコフ: チブカ!
10. 唄ひ手: これぞ天國地上の樂士
夢に夢見てウインのワイン
而もあの子とお二人連れよ。
11. ビビコフ: 陛下、至急の通知でございます!
12. 唱ひ手: これぞ天國ウインの一夜
ウインとワイン、ウインとワイン
13. ビビコフ: 陛下、ナポレオンがフランスに上陸致しました!
た!
14. アレキサンダー: 何?
15. ビビコフ: 直ちに出發致さねばなりません、陛下、お馬車
が——
16. アレキサンダー: 靜かに、娘の居る處で言ふな!
17. ビビコフ: 存じて居ります!
18. アレキサンダー: さあ、クリステル、晩くなつた、もう歸
へらねばならぬと思ふがね。では、又何時逢
はふね?
19. クリステル: 明日、——明日、アレキサンダー!
20. アレキサンダー: わしは „左様なら“とだけ言つて置かう
——そして有難うと!
21. 唱ひ手: 有難う御座いました、殿下! さあ、皆打出し
だ——しつかり! 承知致しました、男爵様、

では又お近いうちに。

22. (音 樂)

23. 唱ひ手: たゞ一度 今日ぞ満つる

吾が命の幸

空開けて 降りそゞぐ

薔薇色の光

たゞ一度 今日ぞ満つる

若き日の幻

命かけて たゞ一度

まゝよ明日は消ゆる夢

命かけて たゞ一度

吾が青春の花は咲けば!

— 終 り —